

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471300214		
法人名	社会福祉法人 若葉		
事業所名	高齢者グループホーム「潮の香」		
所在地	尾道市因島中庄町油屋新開4804番地		
自己評価作成日	令和3年7月29日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和3年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染症の影響で地域との交流やご家族との面会の自粛が続いています。これまで楽しみにしていた外食や日帰り旅行、家族交流会などの行事も中止となりホーム内のみの生活になりました。その中で誕生日会や、潮の香カフェを開催していつもより豪華なケーキや和菓子を選んでもらったりして楽しんでいます。また、同建物の他事業所の行事に参加させてもらい、コロナ感染症の対策を取りながら交流を継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体となる法人が運営する高齢者・障害者地域生活総合支援センター「はばたき」の2階に位置し、周囲には山や畑など緑が多く、近隣の小学校からは子ども達の声が聞こえてくる。利用者への優しい言葉かけや対応を心がけ、家庭的な雰囲気の中で、利用者の個性を尊重し、豊かな生活が送れるよう支援に努めている。職員はチームワークがよく、気付きがあれば意見を出し合い、日々のケアの実践につなげている。家族が意見や要望を気軽に伝えられるようLINEを活用し、また手紙や動画で利用者の様子を伝えるなど、家族の安心につながり、信頼関係を築いている。法人は福祉活動や防災訓練などの地域活動を通じて地域に密着した施設として協力関係を築き、また働き方改革実践企業に認定されるなど幅広い取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎの際に法人の理念と潮の香目標を職員全員で唱和しており、共有と実践につなげている。	法人理念の「すべての人が地域社会で普通の生活をする」を目標に掲げ、毎朝復唱することで意識付け共有している。会議では管理者から事例を取り上げ具体的に話をし、職員の意見をもとに話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、道普、ごみ集積場掃除ほか、常会や各種地域行事に参加して地域の一員として交流している。また、地域の商店を使うなどの配慮をしている。	町内会に加入し、回覧板の閲覧や防災訓練・地域清掃・地区総会へ参加している。近隣に住む職員が多く、地域の一員として交流している。近隣住民からの野菜の差し入れや施設への相談や見学の依頼もある。1ヶ月に及ぶ泊まり込みの大学実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は事業所主催で夏祭りを行っていた。今後は地域の夏祭りに合同で開催する予定にしていたが、中止になった。今後も地域に貢献していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で外部の方を交えた運営推進会議は行えていないが、1回/2月のペースで潮の香内で運営推進会議を行い、コロナ研修、入浴実習等で意見交換や情報提供を行いサービス向上に努めている。	2ヶ月毎にセンター長・計画作成担当者などの職員で運営推進会議を開催し、区長・民生委員・地域包括などへ会議録を持参し、状況を伝えている。会議では利用者に合わせて安全な入浴方法の検討・コロナ感染症の予防について研修を行う等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新時、区分変更時は、市役所を訪問している。また、必要時は尾道市役所の担当者に問い合わせをしたり、訪問をして助言をいただいている。	高齢福祉課からメールで情報発信があり、コロナワクチンの問い合わせなど連絡・相談を行っている。地域包括へ運営推進会議の報告書を持参し、包括からは入居に関する相談や申し込みがあるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議のタイミングで身体拘束適正化委員会会議を行い、職員間で話し合っている。研修会を行った際には全員がレポートを提出して理解を深め、身体拘束をしないケアを心がけている。	2ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。年2回動画を活用し職員研修を行っている。事例を挙げての質問や活発な意見交換があり、その後レポート提出により意識付けや理解度の確認につなげ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出たい人には見守りを行い、法人内の施設職員の協力も得ながら対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの影響で法人研修が無かった為、潮の香会議の中で虐待防止について学習したり、日々のケアの振り返りを行い虐待につながるケアが無いかが皆で意見交換を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば積極的に参加するように努めている。研修後は、伝達研修を行い、職員全員が認識、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を取って、契約書と重要事項説明書等の説明を行っている、不安や、質問等には丁寧に応答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族交流会や面会等を自粛している為、ご家族と直接お話しする機会が減っているが、いつでもケアマネとLine交換ができ、対応している。	利用者からは日常生活の中で食事や新聞購読などの要望がある。家族からは電話やLINEを通じて随時意見を聴き、コミュニケーションロボットの利用相談などがあり、柔軟に対応している。毎月家族へ潮の香便りや手紙を郵送し利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の潮の香会議には総合施設長とセンター長(管理者)も出席しており、職員が遠慮なく意見交換を行い、提案や要望を直接言える機会があり、反映することが出来ている。	毎月の潮の香会議や年2回の個人面談で意見や要望を聴いている。円滑で安全な介助を行うために洗面台の交換など設備への意見や職員のロッカー購入の要望があり反映している。母体となる法人は働き方改革実践企業に認定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	毎月1回の潮の香会議には総合施設長とセンター長(管理者)も出席し、職員の思いを聞き、実態把握に努め、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は全員回覧し、参加を勧め、希望者には参加できるようにシフトを組んでいる。研修後は伝達研修を行い、職員のケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で今はできていないが、近隣の福祉事業者の集まりシーポートに加入し、職員との交流、研修会企画等に参加して、運営に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で、本人の言葉やしぐさ、行動などを観察して気づきを共有し、本人の困りごとの解決に努め、要望には柔軟に対応し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を、じっくりと伺い求められていることに柔軟に対応しており、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とよく話し合い、ニーズを把握して支援できるサービスと出来ない事を見極めて、説明を行い、必要であれば他事業所と連携して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを出来る形で継続していく。自分の事だけでなく、他の人のためにすることで、本人の喜びにつなげ良い関係が気づけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会を自粛しており、直接会える機会が減っているが、動画を送ったり、ビデオ通話でお話する等、良い関係が継続できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会を自粛しており、直接会える機会が減っているが、友人、知人とのふれあいを大切にして、ホームへまた来たいと思っただけのような、おもてなしを心掛けている。	利用者は家族と窓越しの面会やビデオ通話で話をしている。個人持ちの携帯電話で娘と話す人、年賀状が届く人もいる。以前住んでいた地域の方が敬老会の饅頭を持参してくれている。元気がなかった利用者に対して、息子に相談する働きかけから、息子の面会が増えることで元気になり、息子が利用者の作品を持ち帰った事例もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、パイプ役を務めながら、皆さんが、笑顔で生活できるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や思いを日々の支援や会話の中で感じ取り、把握に努めている。また、連絡帳を利用して、職員間で情報を共有して本人に寄り添った支援に努めている。	日常生活の中で利用者の表情や仕草を見て声をかけ、話の中から思いや意向の把握に努め、連絡帳で情報を共有している。個々の生活様式の相違による利用者の思いを把握したり、新聞購読について家族と相談し対応している。おやつを数種類の中から選択してもらったり、具体的に要望を聴き、自己決定できる支援をしている。	引き続き、利用者の思いや意向の把握に努め、利用者が穏やかな生活が送れるよう支援することを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から話を聞いている。必要に応じてこれまでに利用していた事業所から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活支援の中で、状態の変化や気づき等を申し送りや連絡帳で細目に情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で意見交換と、本人や家族からの要望を持ち寄り、現状に則した介護計画を作成している。	日頃から利用者の状態把握に努め、職員や家族から意見を取り入れ、介護計画を作成している。6ヶ月でモニタリングと見直しをしている。状態が変化した場合は家族も交えてのカンファレンスを行い、状況に応じた支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別にケース記録を作成し、薬の変更時などは別に個別記録を記入している。毎日の申し送りや、会議などで情報を共有して実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の同建物事業所との連携、応援を受けて、柔軟な支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響前は、地域の理容院へ行ったり、ホーム以外の地域の人との会話を楽しむことが出来るように支援していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を第一に入居前の主治医を継続したり、新たなかかりつけ医の下で事業所との関係を築き適切な医療を受けられるように支援している。	これまでのかかりつけ医の継続も可能で、受診や往診は主治医や本人に応じて対応している。受診は職員が同行している。夜間・緊急時は主治医や看護師に連絡し、指示に従い対応している。情報共有として医療連携シートを活用し健康管理や医療支援に努める工夫をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックや気づきは、看護師、管理者、ケアマネージャに相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携室や病棟と連携をとり、定期的な訪問を心掛け、担当者とも直接話し、関係づくりを行っている。また、カンファレンスに出席して情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、当ホームは、医師、看護師が常駐ではないことを説明させていただいている。重度化や終末期のケアについては定期的に意思確認を行い、方針変更も視野に入れてかかりつけ医との協力体制に取り組んでおり、本人と家族に寄り添った支援を心掛けている。	入所時に事業所のできる事・できない事を説明している。看取りについては事前確認書を用いて確認している。医師へ相談し家族とも方針を共有し寄り添った支援に努めている。利用者の状態に対して気付きがあれば話し合い、口腔ケアや皮膚の管理を十分に行い、穏やかな終末期となるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事前にマニュアルを作り、会議で確認し合っている。また、法人内で消防による心肺蘇生の研修に参加してAEDの操作の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回の避難訓練を実施、地域での災害訓練に参加、運営推進会議では、協力体制を築くため働きかけを続けている。	年2回、利用者も参加して夜間想定も含めた避難訓練を実施している。消防署立ち合いの訓練も行われ、気づきや反省点を記録に残し、今後に活かしている。水・食料・衛生用品などの備蓄があり、法人内でも協力体制を整えている。地域の防災訓練への参加や法人が広島さっそくネットワークに加入するなど地域の拠点施設としての役割を果たしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ち、職員からも利用者間でも、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけと対応に努めている。	法人内でプライバシーや権利擁護に関する研修を行っている。利用者に敬意を払い、苗字で呼称し、スピーチロックのない思いに寄り添った優しい言葉かけや対応に努めている。排泄や入浴時などプライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望を叶える。入浴や行事の参加は本人の希望を優先している。おやつや飲み物は複数の選択肢から自分で選べるように自己決定を日常的に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな決まりはあるが、それにはとらわれず、一人一人のペースに合わせて個別対応が出来るように、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナの影響で地域の理容院に行けないため、ホーム内で散髪をして衛生的な身だしなみの支援をしている。また、個人の好みを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を受けたり、定期的に嗜好調査を行っている。旬の食材を使った料理を提供している。豆の皮むきなどを手伝ってもらうこともある。	事業所のテラスで収穫した野菜も利用し、多彩なメニューを提供している。厨房会議ではアンケートを実施し献立に活かしている。日曜日の昼食弁当、季節の行事や誕生日会など工夫した献立が利用者の楽しみとなっている。利用者は野菜の下ごしらえやトレイ拭きを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量の記録を取り、一人ひとりの状態、嗜好に合わせて、食材、食事形態、量、食器などを調整している。必要に応じて見守りや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの言葉かけを行い必要な方には、支援している。定期的に歯科の往診ががあり、口腔ケアを受けたり、必要に応じて治療を受けられる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによる言葉かけを行っている。自立されている方にも、見守りパット交換の言葉かけ、排便の確認を行っている。	排泄間隔やタイミングを見計らって言葉かけを工夫し、ほとんどの利用者がトイレで排泄している。身体機能に応じて一部介助や見守りを行っている。職員と行う1日2回の体操や散歩などの歩行訓練で筋力を維持しトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫と水分補給に気を配っており、排便の記録を取り、便秘にならない様に本人、ご家族、主治医と相談しながら。服薬調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1回/3日のペースで入浴するが、利用者様の状況に応じて、時間、曜日にこだわらない入浴を支援している。	3日に1回午前を基本に入浴支援をしている。明るく広い浴室で入浴剤の使用や職員と1対1のゆったりした時間を利用者は楽しんでいる。入浴時に散髪や爪切りも行っている。入浴を嫌がる人には日時を変更する等柔軟に対応し、また同性介護にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室と寝具の清潔に配慮しており、いつでも自由に休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬リストを作成して、薬の効果や注意点用法などの確認を行っている。薬の調整が必要な方にはチェック表を記入する等、個別に支援している。薬の変更時には、連絡帳や申し送り等で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや趣味が継続できるように支援している。また、テラスを散歩する等、本人の希望を伺って、柔軟に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	即、希望に添える日も、そうでない日もあがるが、出来るだけ希望に添えるように努めている。時には他の事業者や家族の支援を受けて支援している。	利用者からの要望もあり、4月に桜やお寺を観て回るドライブ行事を行った。天気の良い日には散歩を行っている。施設の下にある自動販売機にジュースを購入するために出掛けたり、受診の帰りに店に立ち寄り買い物を楽しみドライブして帰るなど個別的な外出支援にも取り組んでいる。法人内の施設行事にも参加し、利用者の楽しみへと繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で、お金を所持する方がいます。状況に応じて管理を支援したり、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族からの要望があれば、電話やビデオ通話ができるように支援している。手紙や荷物が届けば、お渡しし、荷物が届いたことのお礼の電話を一緒にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、みんなで楽しむ団らんの場として活用しています。壁の飾りや生花などで、季節感が味わえるよう配慮しています。また、自分の作品が展示してあるスペースがあり、発表の場にもなっている	家庭的な雰囲気のリビングの壁には毎月利用者が作成する季節に応じた作品が飾られている。中央のテーブルに利用者は集い、体操や作品作り、生け花や会話を楽しみながら過ごしている。居心地よく過ごせるよう利用者の状態に合わせてテーブルや椅子の配置を考慮し工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下端の小空間、リビングの大空間、テラスと、それぞれに椅子、ベンチ等を配し、自由に集い、語る場がある。希望があれば一人になれるようにテーブルを配置しており、柔軟な対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様は、ご家族との写真や使い慣れたものを、そのまま利用しながら、居心地の良い居室づくりを行っている。また、本人の状況に応じて家具の配置を工夫している。	居室はテラス続きで明るく風通しがよく、野菜や花を眺め楽しむことができる。使い慣れた品々やテレビが持ち込まれ、写真などが飾られている。整理整頓がなされ居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「自分のできること」が継続できるように、リビング内の椅子、テーブルの位置を工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18 19	コロナウイルス感染予防のため、面会や外部との交流、外出を自粛しており、ご利用者の楽しみが減っている。	楽しみを作る。	10時と15時には職員も一緒に全員で体操をして体を動かしてからお茶の時間を楽しむ。	6か月
				個別に散歩やドライブをして気分転換を図る。また、希望者には外に出て自動販売機で好きな飲み物を購入出来るように支援する。	6か月
				誕生日会や潮の香カフェ(お楽しみ会)では、いつもより豪華なお菓子を用意して、利用者さんに選んでもらい、選択することの楽しみを持ってもらう。	6か月
			家族との交流を図る。	毎月、潮の香だよりを発行する。また、LINEで動画や写真を送信して日頃の様子をお知らせする。	6か月
				顔を見てお話ができるようにビデオ通話をしてお互いが安心できるようにする。	6か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()